

南海トラフ地震や断層直下型地震に備えて

京都大学防災研究所の西村卓也教授は、「南海トラフ地震は過去に繰り返してきて、時間の経過とともに次の地震の発生日に近づいているのは間違いない。確率に一喜一憂せず、次の地震に対する備えを強化してわれわれの防災意識を高めていくことが重要だ」と話しています。「天災は、忘れた頃にやってくる」です。今一度、備えを点検しましょう。

今からできることで防災&減災しよう

紙面に限りがあり、伝えたいことをすべて掲載できません。できるだけ悪い想定をして、自分自身に必要な準備をしてください。

ハザードマップを確認

手元になければ、各自治体のホームページから見るができます



非常持出品・非常備蓄品

ハザードマップを見て、記載されている物資や、自分や家族に必要なものを準備しましょう

家の中の安全確認

万が一、倒れてきたらどうなるか？想定して、家具を配置しましょう。棚やタンスには転倒防止金具を取り付けたり、部屋の入り口付近には物を置かないようにしましょう。



北川たかし事務所に、お気軽にお立ち寄りください

皆さまのご意見・ご要望など聞かせてください。

北川たかし事務所 Takashi Kitagawa office

〒610-0313 京都府京田辺市三山木中央5丁目1-10 マンション竹長1F
TEL.0774-62-7889 FAX.0774-66-4601

office@kitagawatakashi.net http://www.kitagawatakashi.net



地震発生時の行動のポイント

地震発生

最初の大きな揺れは1分間

- まず身を守る
机の下などへあわてて外に飛び出さない
- 脱出口を確保する
ドア、窓を開ける



揺れが収まったらまず火の始末

- 火元を確認する
火が出たら落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確保する
倒れた家具の下敷きなどでケガをしていないか
- 靴をはく
室内に散乱したガラスの破片などから足を守る



隣近所の安全確認・火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかける
けが人・行方不明者の確認、救出・救護
- 近所に火が出ていたら初期消火
大声で知らせる
消火器を使う
バケツリレーをする
(風呂に水をためておく)



ラジオなどで正しい情報を入手

- 正しい情報をつかむ
ラジオや市役所、自主防災組織の情報を聞く
- 電話はなるべく使わない
緊急連絡電話が優先
安否確認は「災害用伝言ダイヤル171」で
- 家屋倒壊などの危険があれば避難
避難する時はガス栓を閉め、ブレーカーを落とす



協力して消火 救出・救護活動

- 水・食料を家から持ち出す
- 壊れた家には入らない
無理をして二次災害を起すのはいけない
- 災害情報・被害情報の収集



[きたがわ 剛司]

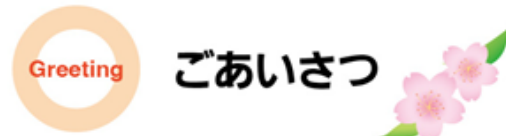
北川たかし 府政活動レポート 第20号 2025.03



プロフィール

京田辺市三山木生まれ/奈良育英高校 卒/大阪電気通信大学 工学部 卒/神戸大学大学院 経営学研究科 修了/元(株)富士通神戸エンジニアリング 勤務/元 流通科学大学 非常勤講師 ラグビー部監督/元 関西大学 非常勤講師/(有)竹長 代表取締役/全日本 京田辺市支部 委員長/NPO法人 幸せに生きる力を育む研究所理事/京都府議会議員
【資格】教育カウンセラー/産業カウンセラー/米国CTIコーチング(CPCO)/防災士/赤十字教団救急員 など
【家族】妻、子ども2人 【趣味】スキューバダイビング/ラグビー

発行 北川 剛司 〒610-0313 京都府京田辺市三山木中央5丁目1-10 マンション竹長1F TEL.0774-62-7889 FAX.0774-66-4601



まだまだ寒い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。能登半島地震から1年が過ぎましたが、秋には水害もあり、本当に心を痛める昨年でした。

地震大国日本に住み限り、地震からは逃げられず、水害や台風などの災害も身近です。

また、先日の埼玉県八潮市での道路陥没事故は、他人事とは思えない事故でした。私たちの誰もが遭遇するかもしれない“道路の陥没”。日本各地でたびたび起こり、さらに今後も増えるようです。国土交通省の調べでは、道路の陥没は大小さまざまなものがありますが、把握されているだけでも“年間1万件以上”

発生しているといえます。こうした、空洞の調査は日々行われていますが、すべてを把握することは難しく、いま日本では「いつどこで陥没が起こってもおかしくない」ということです。京都府でもしっかりと計画を立て、管理をしていますが、絶対安心ということはありません。ある日突然、当たり前に使っていたインフラが使えなくなることの大変さを想像してみると、やはり最低限の備えは必要です。今回は最後のページに、防災と減災について掲載しています。ローリングストックなどで備えをしっかりとっておきましょう。

暖冬かと思えば大寒波が襲い、農作物も被害を受け、野菜やコメの価格は高止まりし、私たちの生活も大きく影響を受けています。値上がりや、内容量が減って、実質値上げになっていたりします。買い物に行くと、「あれ？そんなに買ったかな？」と思う金額になります。経済対しては、府議会議員としてできることは限られますが、少しでも私たちの生活が楽になるように、国会議員へも働きかけ続けたいと思います。

様々な課題に対して、より具体的に取り組みが進むように、皆さんの意見も伺いながら、府に対して提案できるように引き続き全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



京田辺市、井手町、宇治田原町を笑顔でイキイキと暮らせる地域にするために「革新」と「挑戦」で取り組みます。

京都府議会議員 北川剛司

京都府 令和7年度 当初予算

1兆298億8,100万円

全ての営みの土台となる『安心』

- 安心できる健康・医療・福祉
- 災害・犯罪等からの安心・安全

希望や活力の源泉となる『ゆめ実現』

- 未来を拓く京都産業
- 文化の力で世界に貢献する京都
- 交流と連携による活力ある京都

子どもたちを育み、絆を守る『温もり』

- 子育て環境日本一・京都
- 誰もが活躍できる生涯現役・共生の京都
- 共生による環境先進地・京都

人・物・情報・日々の生活の基盤づくり

- 道路整備等の公共事業

総括質疑

3月12日に、会派を代表して総括質疑に登壇します。
答弁の掲載が間に合わないため、予定している質問の要約を掲載します。
府議会のインターネット中継ページや、YouTubeチャンネルで
後日見ることができますので、ぜひご覧ください。



1 実効性のある道路啓開計画の 取り組みについて

質問 北川 犬打峠鷲峯山(いぬうちとうげじゅうぶさん)トンネルが2月24日に開通し、和束町や宇治田原町をはじめ地域住民にとって大きな効果が期待されています。例えば和束町の住民は、宇治田原町のスーパーまで約10分で行けるようになり喜んでいきます。開通日には、和束町側で約200台、宇治田原町側で約100台の車が並ぶほどの期待を集めていました。このトンネルの開通により、地域発展のためには道路環境の整備が欠かせないことが再確認されました。

震災時には、道路が重要なインフラであることが再認識されます。災害で道路が通行不能になると、集落は孤立し救助活動が困難になります。このような状況で求められるのが「道路啓開」という概念であり、これは緊急車両が通行できる最低限の道路の確保を指します。阪神淡路大震災や能登半島地震で有効であったため、「道路啓開」は重要視されています。「道路啓開」が広まったのは東日本大震災以降で、その後、関係法令が見直されてきました。令和6年には能登半島地震、気候変動、人材不足対策を元に「道路法等の改正」が閣議決定され、道路啓開計画が法定化されて重要性が増しています。

京都府も令和7年1月に「京都府域道路啓開計画(案)」を策定しました。この計画は花折断層帯を対象にしており、発生確率が高い南海トラフ地震以外でも準用可能であるとされています。この計画は多様な主体による議論を経て策定されましたが、実効性を確保することが求められます。府民の安全を確保するためには、計画の実地検証を通じて、さらなる改良が必要です。そこで、京都府域道路啓開計画に関する府の認識とこの計画を実効性のあるものにするための今後の運用方針について伺います。

2 高校生の 探求力向上について

質問 北川 京の高校生探究パートナーシップ事業は、府立・京都市立高校の生徒が交流し、学びを深めることで未来を切り拓く人材の育成を目指しています。令和6年に開催された京都探究エキスポでは、116本の探究学習の成果が発表され、生徒たちは他校生徒や専門家からのフィードバックを受け、探究心を深めました。

今後の社会では、暗記や反復学習も大切ですが、変化する社会に対応できるよう、生徒自身が課題を見つけ答えを導き出す能力が求められています。

また、令和7年度には京都探究アドベンチャーが計画されており、これを通じて世界で活躍するトップランナーとの交流により新たな視点を得ることで、高校生たちの問題解決力の育成を進めます。しかし従来の知識の土台がなければ探究力も育たないため、基礎的な学習も不可欠です。よって、これらの活動を通じて豊かな学びを実現し、確かな学力の育成に繋げることが重要です。今年度の取り組みを他の府立高校にも広げ、今後の課題をどのように克服し、さらなる探究力の育成を進めていくのか、また、府立高校全体にこの成果をどのように展開し、どのように豊かな学びの創造と確かな学力の育成につなげようとしているのかを伺います。

2024年に北川が行った 代表質問に対する予算立て

令和6年2月定例会での代表質問にて、
防災、家庭業、家庭教育支援について、質問しました。
答弁の内容から、この令和7年度予算に反映していただきました!

建築物の震災対策計画で、緊急輸送道路沿線の建物の耐震化が必要

継続増額 緊急輸送道路の沿道沿いビルの耐震化確保に約58億2,000万円。

新規 災害時孤立対策強化事業費としてヘリポート設置などの対策に1億6,800万円。

防災において通信障害が発生し、孤立した地域、並び通信手段が失われた際の、情報収集、伝達方法の対応が必要

継続増額 衛星通信系防災情報システムの更新、総合防災情報システムの改修として、約14億円。大規模災害の発生時に確実な情報伝達のための体制を構築。

原子力発電施設周辺地域住民の安全確保のため、避難路の整備や資機材整備など、原子力災害発生時における避難体制の強化が必要

継続増額 避難体制の整備に対して、約12億円。地元市町と一体となり避難態勢の強化を継続的に整備する。

ご要望 ご意見

ハガキへのご返信、ありがとうございました!

19号で同封したハガキを活用して、様々なご意見、ご要望や叱咤激励をいただき、ありがとうございました。

内容は多岐にわたり、**道路、通学路(小中、大学)、農業、河川、防犯、地域活性化**などで、**道路に関するものが一番多く**、皆様の生活に直結した課題をお知らせいただきました。

府に関するものは広域振興局へ要望したり、市や

地域防災力向上のため、地区防災計画に基づく防災活動が地区居住者等によって実施されるように、地域コミュニティそのものの強化や活性化が必要

継続増額 防災土育成事業など約380万円の予算を計上。防災訓練、防災教育などを実施し、共助体制の強化を図る。

家庭教育支援を行うことで、いじめ、ひきこもり、不登校、虐待などの未然防止につなげる必要がある

継続増額 家庭教育支援事業費として、500万円。保護者が自信を持ち安心して子どもの教育に関われるよう支援。ただし、家庭教育支援に関する事業主体は、市町村。

年々、約4%の割合で家族農業者が減っている現状を踏まえ、家族農業に対して積極的な支援が必要

新規 農林水産業人材確保育成戦略事業として、約2,000万円。農林水産業の成長産業化をけん引する高度な専門人材と地域を支える多様な担い手を確保する。

町に関するものは、自治体の議員へお願いしています。すぐに解決できること、できないことはありますが、進捗をチェックしながらまいります。

いつでもご相談に対応させていただきますので、ホームページやお電話、FAXでもお気軽にご相談ください。

